

介護職の人材育成・ 人材マネジメントのヒントを情報発信！

～介護職員及び組織に対する育成をトータルサポート～



NEWS LETTER

発行元：ピーエムシー株式会社
〒955-0845 新潟県三条市西本成寺 1-35-4
TEL:0256-47-3686 FAX:0256-35-0158
<https://www.pmc-jinzai.com/>

■ 過去のニュースレターはHPに掲載
→ダウンロードも可能です。

介護現場のPDCA サイクル

こんにちは ピーエムシー株式会社の斎藤洋です。

早いもので、本年も残すところわずかとなりましたが、2025年とはどのような一年でしたでしょうか。

今年最後のニュースレターの配信となりますが、皆さんどうぞお付き合いください！



PDCA サイクル

PDCA サイクルとは、計画 (Plan) を立て、実行 (Do) し、結果を評価 (Check) し、改善 (Act) につなげる循環型の改善手法です。

大きな改革を一度に行うのではなく、小さく回し続けることで業務の質や成果を段階的に高めていく考え方です。

リーダー育成の場では、「決めたルールが守られない」「新しい機器の導入に否定的である」といった悩みがよく語られます。これらの課題が少しずつでも改善されていないとすれば、介護現場でPDCA サイクルが十分に回っていない可能性があります。

PDCA が止まると現場はどうなるか

例えば、介護現場で新しいケア方法や福祉機器の導入が思うように進まないという話題がよく出ます。導入時には期待をもってスタートするものの、時間が経つにつれて「結局使われなくなった」「以前のやり方に戻ってしまった」という状況に陥ってしまうようです。

近年では見守りセンサーや床走行式リフトなどが事故防止や職員の負担軽減を目的に推奨されていますが、これらは運用の中でPDCAを回し続けることが前提となっており、ただ導入しただけでは業務の効率化や身体負担軽減につなげることはできません。

見守りセンサーに見るPDCA不全

見守りセンサーを例にすると、利用者一人ひとりの身体状況や生活リズムに合わせた設定が必要であり、状態が変化すれば設定の見直しも求められます。

本来は定期的にPDCAを回し、「事故防止という目的を果たしているか」「現場の負担を増やしていないか」を評価し、適宜修正していく必要があります。

しかし現場では設定変更ができず夜間にアラームが鳴り続けて職員が疲弊したり、「うるさいから」と特定の利用者のセンサーを切ってしまうなど、本来の目的とは異なる使われ方をしている場合も見られます。

管理者に求められるPDCAの視点

こうした状況が続くと、「見守りセンサーは役に立たない」という意見が出がちですが、多くの場合、問題は機器そのものではなく改善のサイクルを回していないことにあります。

具体的には、導入段階で職員が使用方法を学び、自分たちで機器設定できるようになることです。

Planとして「何のために使うのか」を明確にし、Doとして実際に使う。Checkとしてアラーム回数や対応時間、事故防止効果を振り返り、Actとして設定や運用方法を修正する。

この小さなPDCAを現場で共有し続けることが重要です。

介護現場におけるPDCAとは特別な管理手法ではなく、日々の実践を振り返り、目的に近づくための思考の枠組みです。

「使う・使わない」の二択ではなく、「どうすれば良くなるか」を問い続ける姿勢こそが、現場を前に進める力になるのです。

主任研修講師 斎藤 のつぶやき



今年も一年、変わらぬご縁と温かいご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

このニュースレターが、皆さまの毎日に少しでもお役立っていただければ幸いです。



来年も引き続き、皆さまと共に歩んでいける一年にしたいと考えております。

どうぞ良いお年をお迎えください。